



第16回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 日本館展示 「東京発 建築民族誌－暮らしのためのガイドブックとプロジェクト」 キュレーターは貝島桃代氏に決定

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）は、2018年5月26日（土）から11月25日（日）にかけて、イタリア・ヴェネチアにおいて開催される「第16回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展」の日本館展示を主催します。このたび、日本館のキュレーターに貝島桃代氏、展示タイトルに「東京発 建築民族誌－暮らしのためのガイドブックとプロジェクト」が決定しましたので、お知らせいたします。

今後、参加作家などが決定いたしましたら随時ご案内申し上げます。つきましては、貴媒体でのご紹介やご取材など賜りましたら幸甚に存じます。何卒よろしくご願ひ申し上げます。

記

■第16回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 日本館 概要

- 【タイトル】 **東京発 建築民族誌－暮らしのためのガイドブックとプロジェクト**
- 【主催／コミッショナー】 独立行政法人国際交流基金
- 【キュレーター】 **貝島桃代**（かいじま・ももよ） / アトリエ・ワン、筑波大学芸術系准教授
スイス連邦工科大学チューリッヒ校建築振る舞い学教授
- 【キュレーターチーム】 ETHZ Studio Bow-Wow
Laurent Stalder（スイス連邦工科大学チューリッヒ校建築理論教授、建築理論・建築史研究所所長）
井関悠（水戸芸術館現代美術センター学芸員）

以上

■貝島桃代氏によるステートメント

20世紀、社会の産業化は生産性を上げて、暮らしに利便性をもたらし、経済を成長させた。また、それは暮らしを産業社会のネットワークに再編することとなり、結果的に人々と身の回りの資源の間に障壁を生みだした。これを壊して、身の回りの資源へのアクセシビリティを高めるのが21世紀の建築の一つの役割である。暮らしを、産業の側からではなく、生活者側から描くために、生態学的、建築的に把握する。これが建築民族誌であり、その社会的共有ツールがガイドブックである。ここでは、高密度な都市空間における事物の隣接性が生み出すハイブリッドな構築物から、都市と農漁山村の交流に必要な空間まで、これまでの「作家」を主体とする見方では捉えられない、古くて新しい、土地のコンテキストに組み込まれたユニークな建築が、東京をはじめ、世界各地から報告されてきた。そのリサーチにもとづいて、身の回りの資源へのアクセシビリティを改善するプロジェクトも提案されている。これらを一堂に集め、建築・都市論のエコロジカルな転回に弾みをつける議論のプラットフォームを構築、21世紀の建築像を照射するのが本展のねらいである。展覧会の内容は4つからなる。①ガイドブックを収集、マッピング化。②ガイドブックの広がり（東京から他の都市へ、都市から自然へ、調査から実践への展開）を分析、提示。制作者へのインタビューなどのまとめ。③建築ガイドブックから派生した実践について取材し、模型、映像などでレポート。④横丁の制作、これを活用した建築・都市論の議論の場としてのカフェバーの定期的運営と記録・発信。

本事業に関するお問い合わせ： 国際交流基金 文化事業部事業第2チーム（担当：杉江、大平）

Tel: 03-5369-6063 / Fax: 03-5369-6038 / E-mail: venezia.a@jpf.go.jp

取材・広報用画像に関するお問い合わせ： コミュニケーションセンター（担当：熊倉、二村、常盤）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp

◆貝島 桃代 (かいじま・ももよ)

1969年東京都生まれ。1991年日本女子大学住居学科卒。1992年塚本由晴とアトリエ・ワン設立。1994年東京工業大学大学院修士課程修了。1996～97年スイス連邦工科大学チューリッヒ校(ETHZ)奨学生。2000年東京工業大学大学院博士課程満期退学。2000～09年筑波大学講師。2009年～筑波大学准教授。2012年RIBAインターナショナルフェロシップ。2017年～ETHZ建築振る舞い学教授。

ハーバード大学GSD(2003,2016)、ETHZ(2005～07)、デンマーク王立アカデミー(2011～12年)、ライス大学(2014～15)、デルフト工科大学(2015～16)、コロンビア大学(2017)で教鞭をとる。住宅、公共建築、駅前広場などの設計に携わる傍ら、「メイド・イン・トーキョー」「ペットアーキテクチャー」などの建築を軸とした都市の調査を多数行っている。

◆ETHZ Studio Bow-Wow

2017年8月にETHZの建築デザインで始動した建築振る舞い学講座。

◆ロラン・スタルダー (Laurant Stalder)

1970年、ローザンヌ生まれ。1996年スイス連邦工科大学チューリッヒ校(ETHZ)卒。1996～97年、スイス建築学考古学研究所(カイロ)奨学生。1997～2001年、ETHZ建築学科建築理論・建築士研究所(gta)助手、2002年に同校博士課程修了。同年にカナダ、ケベック州ラヴァル大学建築史准教授。2006年以降gta研究所にて建築論の講師として勤め、2011年に同校准教授に就任。2009年にはマサチューセッツ工科大学にて教鞭を取り、2016年以降はgta研究所の所長を務める。

◆井関 悠 (いせき・ゆう)

水戸芸術館現代美術センター学芸員。千葉大学卒業。秋吉台国際芸術村企画課、横浜トリエンナーレ2005アシスタントキュレーター、資生堂ギャラリー学芸員、ヨコハマトリエンナーレ2014コーディネーターなどを経て、2014年12月より現職。

■第16回 ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 全体概要

- 【会期】 2018年5月26日(土)～11月25日(日)
【会場】 ジャルディーニ地区(Giardini di Castello)、アルセナーレ地区(Arsenale)など
【総合ディレクター】 Yvonne Farrell, Shelley McNamara
【総合テーマ】 FREESPACE
【公式ウェブサイト】 <http://www.labiennale.org>

【ヴェネチア・ビエンナーレ(Biennale di Venezia)について】

ヴェネチア・ビエンナーレは、イタリアの島都市ヴェネチアの市内各所を会場とする芸術の祭典です。1895年に最初の美術展が開かれて以来、120年以上の歴史を刻んでいます。近年、世界各地で美術を中心に、国際的な芸術祭が開催されるようになってきていますが、ヴェネチア・ビエンナーレはそれらのモデル・ケースとなった最も著名な存在です。「ビエンナーレ」とは「2年に一度」を意味するイタリア語で、同様な芸術祭の多くが「ビエンナーレ」や「トリエンナーレ」(3年に一度)と命名されているのは、ヴェネチア・ビエンナーレに範をとったものとされています。現在、美術展、建築展、音楽祭、映画祭、演劇祭などを独立部門として抱えるようになりましたが、そのうち建築展は、現代の建築の動向を俯瞰できる場として、また国別参加方式を採る数少ない国際展として世界の美術界の注目を集めています。

本事業に関するお問い合わせ： 国際交流基金 文化事業部事業第2チーム (担当：杉江、大平)

Tel: 03-5369-6063 / Fax: 03-5369-6038 / E-mail: venezia.a@jpf.go.jp

取材・広報用画像に関するお問い合わせ： コミュニケーションセンター (担当：熊倉、二村、常盤)

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp